

町政を問う

住民検診の拡充を！



乾 裕

胃がん検診の際、ピロリ菌検査の追加実施は

町長 来年度の実施に向けて取り組みたい

防災対策に女性の視点は

町長 まず、避難所を中心に見直しを行った

胃がんの撲滅について

乾 国内で毎年およそ十万人が胃がんを発症し、約五十万人が亡くなっている。本町でも胃がん対策は急務である。

町長 胃がん撲滅に対する認識は同感である。

乾 胃がんとピロリ菌の因果関係は医学的に証明されている。政府も認め本年二月二十一日より健康保険が適用にもなっている。本町での胃がん検診の際、ピロリ菌検査の追加の考えは？

町長 あり得ると思う。町内の医師や保険事業団とも検査方法など相談し、来年度の実施に向けて取り組んでいきたい。

子宮頸がん対策について

乾 子宮頸がん予防ワクチン接種で副作用の報道があるが？

町長 本町での副作用の報告はありません。

乾 子宮頸がんの予防ワクチンがこの四月から定期接種化された。国内では年間一万五千人前後の女性が発症し、約三千五百人の方が亡くなっている。原因は、ほぼヒトパピローマウイルス「HPV」への感染である。これを防ぐワクチンの接種だが、検診も含めた予防体制を整える必要があると言われているが？

町長 厚労省が予防ワクチンの積極的な勧奨を一時中止した事によって接種率への影響が出てくる

のではないかと。また、若い世代の受診率に結びつくかは若干疑問を挟む。

乾 厚労省が二〇一三年度から子宮頸がん検診の精度を上げるため、細胞診に加え「HPV」検査を併用したモデル事業を実施することだが？

町長 近隣自治体で実施されるようなので特に受診率がどうなのか、まずは見させて頂きたい。

防災、復興計画に女性の視点を

乾 政府は地震など災害に備えて自治体が策定する防災・復興計画に反映させるため、女性専用のスペース確保など、女性の視点を盛り込んだ指針案をまとめた。本町の対応は？

町長 重要な視点である。

東日本大震災を受けて、本町でも災害想定をし避難所を中心に配置の見直しを行い防災マップを作成し配布した。本町では、地震、風水害、洪水、竜巻などを想定している。災害が発生すれば一次避難所、二次避難所、町内に分散して避難が可能と思っている。

担当課長 避難所の見直しについては空調、授乳スペース、つい立てなどの備蓄の項目の文書を入れた。

女性用品、乳幼児用品の備蓄は？

担当課長 女性用品、哺乳ビン、粉ミルク、紙おむつ、いずれも備蓄基準を満たしている。

乾 女性を防災・復興の「主体的な担い手」と

言うことで、地域防災会議における女性委員の増員、避難所の運営に当たるスタッフも女性が三割以上を求めている。

担当課長 現在、防災会議の中に女性委員はいない。この点について女性スタッフの三割も含めて引き続き取り組んでいきたい。

乾 感震ブレイカーの設置状況は？

町長 感震ブレイカーの設置についての数字が把握できていない。設置義務がなく、数字を取りにくい面もあるがテレビ等を通じて啓発に努めたい。